

授業科目名	衛生管理	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年後期	
		必修	単位/時間	3単位	90時間
担当教員	外園 賢太郎 (実務経験あり) (実務経験内容) 美容師として勤務し、衛生管理教員資格を有しており、その経験をもとに講義を行う。				
(授業の内容と到達目標) 公衆衛生の意義と本質を明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進についての責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させる。特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる。美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、美容における衛生措置の重要性について理解させる。特に、美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させるとともに、その適正な実施方法を身につけさせる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容	回数	内 容		
1	公衆衛生の意義と課題	25~28	感染症の総論、発見の歴史、感染症と法律、分類		
2~3	欧米の公衆衛生の歩み、わが国の公衆衛生の歩み	29~30	微生物の種類、微生物の形と大きさ、微生物の構造		
4	消毒法の歴史	31	微生物の増殖と環境の影響		
5	歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生	32	微生物の病原性と人体の感受性		
6	公衆衛生と理容師・美容師	33	汚染、感染および発病		
7~8	保健所と理容業・美容業	34~35	常在細菌叢、免疫と予防接種		
9~10	母子保健、成人・老人保健・精神保健	36~37	感染症発生の要因、感染症予防の3原則		
11~12	環境衛生の概要、環境衛生の内容	38	美容・美容と感染症		
13~14	環境衛生の目的と意義、環境衛生活動	39~41	一類~五類感染症		
15~16	空気と健康、温度、湿度、風と健康	42	空気・飛沫を介する感染症		
17~18	衣服の衛生、住居の衛生	43~44	飲食物、血液等を介する感染症		
19	上水道、下水道・廃棄物	45	動物・節足動物を介する感染症		
20	衛生害虫、ネズミ	46	具体的な対策令		
21~23	水と健康、日光と健康、気候と健康	47	消毒とは		
24	大気汚染、水質汚濁	48	病原微生物と非病原微生物		

授業科目名	衛生管理	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年後期	
		必修	単位/時間	3単位	90時間
担当教員	外園 賢太郎（実務経験あり） （実務経験内容） 美容師、衛生管理教員資格を有しており、その経験をもとに講義を行う。				
（授業の内容と到達目標） 公衆衛生の意義と本質を明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進についての責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させる。特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる。美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、美容における衛生措置の重要性について理解させる。特に、美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させるとともに、その適正な実施方法を身につけさせる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
49	消毒の原理		65	その他の消毒法	
50	汚染、感染、発病と消毒の意義		66~67	すぐれた消毒法の条件、消毒を行う際の注意事項	
51	消毒、滅菌、殺菌、防腐の定義		68~69	消毒液のあらし、器具の使い方	
52	消毒に関連のある法の規定		70	常備しておくとい消毒液と希釈液の濃度	
53	消毒を怠った場合の危険と理容師・美容師の責任		71	消毒液希釈法	
54	消毒法の種類		72	理容所・美容所における消毒の原則	
55	消毒（殺菌）に必要な条件		73	消毒液希釈法・理容所・美容所の消毒設備	
56	病原微生物の抵抗力		74	理容・美容器具類の消毒法（布片などの用具を含む）	
57	消毒薬・消毒液の使用、保存上の注意		75	理容師・美容師の手指の消毒・その他のものの消毒・理容所・美容所の消毒の現状	
58	紫外線・煮沸		76	清潔保持と清掃	
59	蒸気（大気圧下の蒸気）		77	洗剤による洗浄法	
60	その他の理学的消毒法		78	洗い場の構造と清潔保持・清掃	
61~62	アルコール類、塩素剤（次亜塩素酸ナトリウム）		79	刈り取った髪の毛の処理、ふたつき汚物箱などの消毒	
63	界面活性剤（逆性石けん、両性界面活性剤）		80	ハエやカなどの駆除	
64	グリコール酸クロロヘキジン		81~90	国家試験対策	

授業科目名	保健	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年後期	
		必修	単位/時間	3単位	90時間
担当教員	長野 慎治 (実務経験あり)				
	(実務経験内容) 薬剤師の資格を有し薬局勤務の経験をもとに講義を行う。				
(授業の内容と到達目標) 美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得する。美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1	人体各部の名称		16	平衡感覚	
2	頭部、顔部、頸部の体表解剖学		17	味覚	
3	骨の種類と構造		18	嗅覚	
4	骨の連結		19	皮膚感覚	
5	骨格器系とそのはたらき		20	血液のあらまし	
6	骨の保健		21	血液循環の仕組み	
7	筋の種類とその特徴		22	血液の循環器経路	
8	おもな骨格筋とそのはたらき		23	心臓と血液のはたらき	
9	顔面筋と表情運動		24	リンパ管系	
10	理容・美容の作業と筋疲労		25	呼吸器系のあらまし	
11	神経系のなりたち		26	気道	
12	中枢神経とそのはたらき		27	肺の仕組みとガス交換	
13	末梢神経とそのはたらき		28	呼吸運動	
14	視覚		29	消化器系のあらまし	
15	聴覚		30	消化管の仕組み	

授業科目名	保健	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年後期	
		必修	単位/時間	3単位	90時間
担当教員	長野 慎治 (実務経験あり) (実務経験内容) 薬剤師の資格を有し薬局勤務の経験をもとに講義を行う。				
(授業の内容と到達目標) 美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得する。美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
31	消化管のはたらき		46	皮膚の神経	
32	消化と物質代謝		47	対外保護作用	
33	皮膚の表面		48	体温調節作用	
34	皮膚の断面		49	知覚作用と皮膚反射	
35	表皮		50	分泌排泄作用	
36	表皮と真皮の境		51	呼吸作用	
37	真皮		52	吸収作用	
38	皮下組織		53	貯蔵作用	
39	皮膚の部位による相違		54	免疫・解毒・排除作用	
40	毛		55	再生作用	
41	脂腺		56	毛のはたらき	
42	汗腺		57	爪のはたらき	
43	爪		58	皮膚と全身状態	
44	皮膚の血管		59	皮膚と精神	
45	皮膚のリンパ管		60	皮膚と栄養	

授業科目名	保健	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年後期	
		必修	単位/時間	3単位	90時間
担当教員	長野 慎治（実務経験あり） （実務経験内容） 薬剤師の資格を有し薬局勤務の経験をもとに講義を行う。				
（授業の内容と到達目標） 美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識を習得する。美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
61	皮膚とし好品		76	血管腫（アカアザ）	
62	皮膚と環境		77	分泌異状による皮膚疾患	
63	皮膚と対内病変		78	化膿菌による皮膚疾患	
64	皮膚・付属器官とホルモン		79	ウイルスによる皮膚疾患	
65	皮膚の老化		80	真菌による皮膚疾患	
66	皮膚の保護と手入れ		81	動物による皮膚疾患	
67	毛の保護と手入れ		82	毛と爪の疾患	
68	爪の保護と手入れ		83	感染性の皮膚疾患の予防	
69	発疹の種類		84	皮膚の腫瘍	
70	皮膚疾患の原因		85	国家試験対策	
71	皮膚疾患の治療法		86	国家試験対策	
72	湿疹、皮膚炎群、蕁麻疹、薬疹		87	国家試験対策	
73	温熱・寒冷による皮膚障害		88	国家試験対策	
74	角化異状による皮膚疾患		89	国家試験対策	
75	色素異常による皮膚疾患		90	国家試験対策	

授業科目名	香粧品化学	共通	対象学年	2 年	
		講義	開講時期	通年	
		必修	単位/時間	2 単位	60 時間
担当教員	長野 慎治 (実務経験あり)				
	(実務経験内容) 薬剤師の資格を有し薬局勤務の経験をもとに講義を行う。				
(授業の内容と到達目標) 香粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こす恐れがあるものであることから、その科学的な性質を理解させるとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身につけることが重要であることを認識させる。美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、香粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法を習熟させ、あわせて、香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶ。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1	物質の構成・原子・イオン		16	燃焼の条件と消化・消火器の種類と使い	
2	イオン結合とイオン結晶・共有結合と分子・金属結合と金属		17	香粧品の社会的意義・香粧品の品質と必要条件・香粧品の種類と機能	
3	原子量と分子量・物質の変化と化学反応		18	香粧品の社会的意義・香粧品の品質と必要条件・香粧品の種類と機能	
4	溶液と溶解のしくみ・飽和溶液と溶解度・浸透圧		19	香粧品の定義・香粧品の製造(輸入販売)の規制	
5	コロイドの定義と種類・ミセルと乳濁液		20	香粧品の品質等の規制香粧品の表示・広告の規制	
6	酸と塩基の定義・酸と塩基の強弱・水のイオン積と pH		21	水・エタノール(1 価の低級アルコール)・保湿剤(湿潤剤)	
7	中和反応と塩・広い意味での中和反応・塩の加水分解		22	油脂・ろう類・炭化水素・その他の油性原料・油性原料の機能	
8	酸化と還元の定義・酸化剤と還元剤・酸化・還元反応と香粧品		23	界面活性剤の基本的性質・界面活性剤の種類	
9	飽和炭化水素・不飽和炭化水素		24	界面活性剤の香粧品への応用	
10	官能基のついた炭化水素・官能基どうしが結合した炭化水素		25	分子化合物の種類と特性・高分子化合物の香粧品への応用	
11	高分子化合物の特徴・天然高分子化合物・合成高分子化合物		26	色材・無機顔料・色素(有機合成色素)・光輝性顔料(パール顔料)・天然色素	
12	硬水と軟水・硬水の軟化・精製水		27	香料と香粧品・香料の種類・調合香料	
13	金属の性質・合金の種類と特徴		28	防腐殺菌剤・酸化防止剤	
14	金属のイオン化傾向・金属の反応性・金属のさびと腐食		29	紫外線吸収剤・収れん剤・その他の特殊成分	
15	鉄の種類と用途・刃物の材質としての鉄		30	皮膚の汚れと清浄作用	

授業科目名	香粧品化学	共通	対象学年	2 年	
		講義	開講時期	通年	
		必修	単位/時間	2 単位	60 時間
担当教員	長野 慎治 (実務経験あり)				
	(実務経験内容) 薬剤師の資格を有し薬局勤務の経験をもとに講義を行う。				
(授業の内容と到達目標) 香粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起す恐れがあるものであることから、その科学的な性質を理解させるとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身につけることが重要であることを認識させる。美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、香粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法を習熟させ、あわせて、香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ぶ。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
31	石けんの種類とその性質・その他の清浄剤		46	スタイリング剤の機能・油性・液状・高分子物質を基剤とする物	
32	化粧水の種類と機能性		47	パーマメントウェーブの原理・パーマメントウェーブ用剤の種類・パーマメントウェーブ用剤第一剤	
33	クリーム・乳液の皮膚への作用・クリームの種類と機能		48	パーマメントウェーブ用剤第二剤・ニ浴式パーマメントウェーブ用剤・パーマメントウェーブ用剤の使用上の注意	
34	クリーム・乳液の皮膚への作用・クリームの種類と機能		49	染毛剤の種類と染毛メカニズム	
35	乳液の種類と機能		50	一時着色料・半永久染毛料・永久染毛剤	
36	化粧液(美容エッセンス)・打粉類・パック剤		51	ヘアブリーチ剤・染毛剤の使用上の注意	
37	メイクアップ用香粧品の種類と剤型		52	脱毛の原因・毛剤の種類と機能・育毛・養毛剤の原料	
38	おしろい類・ファンデーション類		53	香水・オーデオロン	
39	紅類・アイメイクアップ香粧品		54	その他の芳香製品・芳香製品の効用と使用上の注意	
40	美爪用香粧品(マニキュア製品)		55	サンケア製品・美白用香粧品	
41	頭皮や毛髪の性状		56	制汗・脱臭剤(医薬部外品)・ニキビ用香粧品(医薬部外品)	
42	シャンプー剤・ヘアリンス剤・ヘアトリートメント剤		57	除毛剤・脱色剤・香粧品の安定性	
43	スタイリング剤の機能		58	香粧品の経時変化・使用上、取扱い上の注意	
44	油性スタイリング剤		59	香粧品と安全性・表示成分と安全性・香粧品によるトラブル	
45	液状スタイリング剤		60	香粧品と安全性・表示成分と安全性・香粧品によるトラブル	

授業科目名	文化論	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年前期	
		必修	単位/時間	2単位	60時間
担当教員	田邊 浩史 (実務経験内容)				
(授業の内容と到達目標) 美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力とを養う。美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身につけるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1~2	美容業の発生		31~34	古代ギリシャ・ローマ、古代ゲルマン	
3~4	江戸時代の美容業		35~36	中世ヨーロッパ	
5~6	近代の美容業		37~38	近世Ⅰ (16世紀)	
7~8	現代の美容業		39~40	近世Ⅱ (17世紀)	
9~10	縄文・弥生・古墳時代		41~42	近世Ⅲ (18世紀)	
11~12	古代 (飛鳥・奈良・平安時代)		43~44	近代Ⅰ (18世紀末~19世紀初め)	
13~14	中世 (平安末・鎌倉・室町・戦国時代)		45	近代Ⅱ (19世紀)	
15~16	近世Ⅰ (戦国末・安土桃山時代)		46~47	現代Ⅰ (1910年代~1920年代)	
17~18	近世Ⅱ (江戸時代)		48~49	現代Ⅱ (1930年代~1940年代)	
19~20	近代 (明治・大正・昭和20年まで)		50~51	現代Ⅲ (1940年代~1950年代)	
21~22	現代Ⅰ (1945年代~1950年代)		52~53	現代Ⅳ (1960年代)	
23~24	現代Ⅱ (1960年代~1970年代)		54~55	現代Ⅴ (1970年代)	
25~26	現代Ⅲ (1980年代~1990年代)		56~57	現代Ⅵ (1980年代)	
27~28	現代Ⅳ (2000年代以降)		58	現代Ⅶ (1990年代~2010年)	
29~30	古代エジプト		59~60	和装の礼装、洋装の礼装	

授業科目名	美容技術理論	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年前期/2年後期	
		必修	単位/時間	5単位	150時間
担当教員	専任教員（実務経験あり）				
	（実務経験内容） 美容師として勤務し、美容技術理論教員資格を有しており、その経験をもとに講義を行う。				
（授業の内容と到達目標） 美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる。美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させ、併せて美容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調する。					
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1~2	美容理論と美容技術について		35	着付けの一般的要領・婚礼着付けの際の注意事項	
3~4	美容技術における作業姿勢		36~37	着付け技術・振袖着付け技術	
5~7	美容技術に必要な人体各部の名称		38	帯締め・帯揚げの結び方・羽織のひもの結び方	
8~9	美容技術と用具・コーム・ブラシ・シザーズ・レザー・アイロン		39	男子礼装羽織、袴着付け技術	
10~11	ドライヤー・スチーマー・遠赤外線器その他の美容用具		40	女子袴着付け技術	
12~16	リンス、コンディショナー、トリートメント、スカルプトリートメント		41	花嫁	
17	ヘアカッティングとは・シザーズとレザーの扱い方・ヘアカッティングの正しい姿勢		42	花嫁－ウェディングドレスの知識	
18~19	ブロッキング・ヘアカッティングの基礎理論		43~44	ネイル技術概論・ネイル技術の種類	
20~21	ベーシックなカット技法・シザーズによるカット技法・レザーによるカット技法		45~46	爪の構造・爪のカット形状	
22~23	メイクアップ概論・頬の形態的な観察		47	ネイル技術を行う上での注意とカウンセリング	
24~26	メイクアップと色彩・皮膚の生理学・構造		48	マニキュア技術・ペディキュア技術・リペア技術	
27~28	メイクアップの基本テクニック・ベースメイクアップ・アイメイクアップ		49~50	パーマメントウェーブの歴史と現在・パーマメントウェーブの理論と実際	
29~30	アイブローメイクアップ・リップメイクアップ・ブラッシュオンメイクアップ		51~52	パーマメントアラカルト	
31~32	着付けの目的・礼装・着物と季節・着物のいろいろ		53~55	ヘアセッティングとは・ヘアパーティングヘアシェーピング	
33~34	帯の種類・小物の種類		56~57	ヘアカーリング・カールピニング・ピンカール・ターンシステム・メイポールカール	

授業科目名	美容技術理論	対象学年	1・2年	
		開講時期	1年前期/2年後期	
		単位/時間	5単位	150時間
担当教員	専任教員（実務経験あり）			
	（実務経験内容） 美容師として勤務し、美容技術理論教員資格を有しており、その経験をもとに講義を行う。			
（授業の内容と到達目標） 美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる。美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させ、併せて美容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調する。				
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）			
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック			
回数	内 容	回数	内 容	
58~59	スキャルプチュアカール・ルフトカール・クロックノール・ヘアウェービング	88~90	日本髪手入れ法・かつらのつけ方	
60	フィンガーウェーブ・スキップウェーブ・オールウェーブ構成	91~92	美容とデザイン	
61~62	ローラーカール・ブロードライ・アイロンセッティング	93~96	デザインの要素	
63~64	アップスタイル・ウィッグとヘアピース	97~98	まとめ	
65~67	ヘアカラーリング概論・ヘアカラーの種類・ヘアカラーのタイプ別特徴	99~150	国家試験対策	
68~70	染毛のメカニズム・色の基本毛髪のアンダートーンとレベルについて			
71~72	ヘアカラーリングの注意事項・パッチテスト（皮膚貼布試験）酸化染毛剤（アルカリ性）			
73	酸性染毛剤料の技術プロセス・ヘアブリーチ（脱色）			
74~75	エステティック概論・美容におけるマッサージ概論			
76~77	フェイシャルケア技術・ボディケア技術・脱毛ケア技術			
78~79	エステティック概論・美容におけるマッサージ概論			
80	フェイシャルケア技術・ボディケア技術・脱毛ケア技術			
81~82	カウンセリング・物理療法と美容			
83~85	日本髪の由来・日本髪の各部名称・日本髪の種類と特徴			
86~87	日本髪と調和・日本髪の装飾品・日本髪技術			

授業科目名	運営管理	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年後期	
		必修	単位/時間	1単位	30時間
担当教員	玉利 太一郎（実務経験あり） （実務経験内容） 社会科の教員免許を持ち、公立高校での教諭経験をもとに講義を行う。				
（授業の内容と到達目標） 経営管理及び労務管理の基本的事項を学習することによって、美容業における運営管理手法の重要性を認識させ、美容所の運営に役立たせる。美容業において、適切な接客態度がいかに重要であることを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身につけさせる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1	経営が必要とされる理由 継続が難しい理由		16	キャリアプランの重要性 仕事をするうえで考えるべき事	
2	経営とは何か 経営資源と経営計画		17	顧客が求める価値 価値の実態	
3	経営戦略 経営戦略が目指すもの		18	顧客満足の実現のためのシステム 最も重要な価値	
4	業界の概要 競争の変化		19	価値の多様性 顧客が求めるもの サービスの範囲	
5	サービスとしての美容 美容業の顧客について		20	美容業のマーケティング マーケティング・ミックス	
6	資金管理の重要性 収支と損益		21	マーケティング・ミックスの短期的要因①②	
7	会計の考え方 コストを管理する		22	マーケティング・ミックスの長期的要因①②	
8	税金について		23	サービスのシステム化	
9	人という資源とは 人の能力を高める		24	顧客についての理解 よい接客のために	
10	人をやる気にさせるために 給与		25	接客の実践①②	
11	待遇・福利厚生 労働者の権利		26	接客の実践③④⑤	
12	健康管理の基礎 美容の仕事と健康		27	接客におけるトラブルと対応 接客で発生が予想される問題	
13	美容業に特徴的な健康課題 美容の作業環境に関する健康問題		28	問題を深刻化させないための対策・対処	
14	社会人としての責任・美容業の従業員としての責任		29	国家試験対策	
15	社会保険 公的年金 医療保険 労働保険		30	国家試験対策	

授業科目名	美容実習	共通	対象学年	1・2年	
		実習	開講時期	1年前期/2年後期	
		必修	単位/時間	30単位	900時間
担当教員	専任教員（実務経験あり） （実務経験内容） 美容師として勤務、美容実習教員資格を取得しておりその経験をもとに実習を行う。				
（授業の内容と到達目標） 美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させる。美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせる。 個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト				
回数	内 容		回数	内 容	
1~210	用具の使い方、ブロッキング、スライスの取り方、シェーブの仕方		451~630	前処理、道具の使い方、ウェーブの作り方	
	巻き方、収め方、ゴムの掛け方			フィンガーウェーブ	
	基本オールパーパス 練習			馬蹄形、スカルプチュアカール	
	1頭 20分で巻けるように反復練習			復習、リフトカール、メイポールカール、クロッキノールカール	
	国家試験課題スタイル			全体構成	
	ワインディングバリエーション（応用）			国家試験課題の反復練習（1頭25分）	
	国家試験課題の反復練習（1頭20分）				
211~280	道具の扱い方、基本的なパーマ技法		631~750	スタイル構成	
	パーマスタイルバリエーション			アウトライン、レイヤーつなぎ	
281~360	道具の扱い方、基本的なカラー技法			国家試験課題の反復練習（1頭20分）	
	グレーカラー、オシャレ染め				
	ブリーチ、ホイールワーク				
361~450	シャンプー、リンス		751~900	国家試験課題の反復練習	
	トリートメント、スカルプトリートメント				
	ヘッドスパ				

授業科目名	総合技術	専門	対象学年	1・2年	
		実習	開講時期	1年前期/2年後期	
		選択必修	単位/時間	12単位	360時間
担当教員	瀬戸山 このみ/外園 賢太郎/藤野 勇馬 (実務経験あり) (実務経験内容) 美容師として勤務した経験等をもとに実習を行う。				
(授業の内容と到達目標) 美容実習での基礎をふまえ、より高度な技術を身につけるとともに、総合的にこれらを組み合わせ調和の取れた美容技術を完成させるため、常に新しい技術の吸収を怠らず、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣づけさせる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1~40	ローラーの巻き方、三つ編み、ツイスト、ゴムの結び方、バックコーム		151~220	パーマ理論	
	編みこみスタイル			パーマ技術	
	アップ、ダウンスタイル			スタイルパーマ技術	
	応用アップスタイル			応用パーマスタイル	
41~70	道具の使い方、ハンドブロー			カット理論	
	ブラシを使ったブロー技術			道具の使い方、基本手技	
	ヘアアイロン技術			ワンレングスカット	
71~110	カラー理論			グラデュエーションカット	
	グレイカラー、リタッチ技術			レイヤーカット	
	おしゃれ染め、ヘアマニキュア技術			ベーシックカット	
	ホイルワーク、応用ヘアカラー			221~360	美容総合技術

授業科目名	メイク	専門	対象学年	1年	
		演習	開講時期	通年	
		選択必修	単位/時間	2単位 60時間	
担当教員	瀬戸山 このみ (実務経験あり)				
	(実務経験内容) 美容師としての実務、また、アーティストユニオンの認定講師資格を有している経験をもとに指導を行う。				
(授業の内容と到達目標) メイクの基礎理論、基礎技術を学び、個人の感性を高める技術を学ばせる。メイクアップ検定の合格を目指す。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	アーティストユニオン協会発行テキスト				
回数	内 容		回数	内 容	
1	スキンケア		16	洗顔・下地・ベース	
2	肌のタイプ別メイクアップ		17~18	ハイライト・シャドウフェースパウダー	
3	プレメイクアップ・ベースメイクアップ		19~20	アイシャドウ・ハイライト・アイカラー	
4	ポイントメイクアップフィニッシュメイクアップ		21~22	アイライン・マスカラ・つけまつ毛	
5	ボディーメイクアップ		23~24	眉・口紅・チーク	
6	顔立ちの理想のプロポーション・顔型と印象・目の形と印象眉の形と印象		25~26	ボディーメイクアップ・仕上げ	
7	メイクアップグッズの種類と目的		27~28	和装メイクから洋装メイクへのクイックチェンジ	
8	洗顔		29~30	洋装メイクから和装花嫁へのクイックチェンジ	
9	下地・ベース		31~32	男性の化粧	
10	ばかし紅・鼻すじ (扇形ゾーン) フェースパウダー		33~34	フォーマルメイク	
11	水化粧・スポンジパフ・フェースパウダー・ポイント化粧		35~36	七五三の化粧 (三才)・七五三の化粧 (七才)	
12	衿、首すじの化粧・手の化粧		37	メイクアップ化粧品・用具の基礎知識	
13	下地・ベースばかし紅&鼻すじ		38	化粧道具の手入れ法	
14	フェースパウダー・肌の仕上げ・ポイント化粧		39~60	検定対策	
15	衿、首、手の化粧				

授業科目名	ネイル	専門	対象学年	1 年	
		演習	開講時期	通年	
		選択必修	単位/時間	2 単位	60 時間
担当教員	瀬戸口 チカ (実務経験あり)				
	(実務経験内容) ネイリストとしてネイルサロンでの実務、また日本ネイリスト協会認定講師資格を有している経験をもとに指導を行う。				
(授業の内容と到達目標) プロフェッショナルなネイリストとして必要なネイルに関する学術、専門的知識及びネイルケアの基礎テクニック 3 級検定を学び、正しい専門知識と技能を身につける。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本ネイリスト協会発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1	ネイルの歴史とその発展		16	神経	
2	ネイル技術体系		17	循環	
3	爪の構造		18	爪の診断	
4	爪の働き		19	爪の異常	
5	カウンセリング目的		20	色調の異常	
6	カウンセリングのチェックポイント		21	皮膚疾患	
7	フリーエッジの形と特徴		22	衛生管理	
8	爪の構造と働き		23	消毒、滅菌、殺菌、防腐の定義	
9	皮膚の付属器官		24	2 種類の消毒法	
10	表皮の構造		25	消毒法の適応について	
11	爪と表皮組織		26	消毒の具体的方法	
12	手の骨		27	ネイルの為のマッサージ	
13	上肢の骨格		28	マッサージの目的と効果	
14	手と指を動かす筋と腱		29	手のツボ	
15	手指の感覚器		30	カラーポリッシュの選択	

授業科目名	ネイル	専門	対象学年	1 年	
		演習	開講時期	通年	
		選択必修	単位/時間	2 単位	60 時間
担当教員	瀬戸口 チカ (実務経験あり)				
	(実務経験内容) ネイリストとしてネイルサロンでの実務、また日本ネイリスト協会認定講師資格を有している経験をもとに指導を行う。				
(授業の内容と到達目標) プロフェッショナルなネイリストとして必要なネイルに関する学術、専門的知識及びネイルケアの基礎テクニック 3 級検定を学び、正しい専門知識と技能を身につける。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本ネイリスト協会発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
31	日本人の肌の分類		46	グリーンオンテクニック・シルクラップテクニック	
32	ネイリストの為の色彩理論		47	ラインストーン・シール・アレンジ・ブラシワーク	
33	化粧品の定義及び目的		48	ラインストーン・シール・アレンジ・ブラシワーク	
34	ネイル用化粧品の主な成分とその働き		49	検定対策	
35	接客・信頼されるネイリストとしての心構え		50	検定対策	
36	プレマニキュア・ファイル・クリーンナップ・ペイント		51	検定対策	
37	テーブルセット・手指消毒・ポリッシュ・リムーブ・カウンセリング		52	検定対策	
38	プレマニキュア・ファイル		53	検定対策	
39	プレマニキュア・ファイル・クリーンナップ		54	検定対策	
40	マッサージの準備・ハンドマッサージテクニック		55	検定対策	
41	ペイントのプレテクニック		56	検定対策	
42	全工程のチェック 1		57	検定対策	
43	全工程のチェック 2		58	検定対策	
44	全工程のチェック 2 模擬テスト		59	総復習	
45	グリーンオンテクニック・シルクラップテクニック		60	総復習	

授業科目名	ヘアケアマイスター	専門	対象学年	2年	
		講義	開講時期	2年前期	
		選択必修	単位/時間	1単位	30時間
担当教員	藤野 勇馬（実務経験あり） （実務経験内容） 美容師として勤務、ヘアケアマイスター認定講師資格を有しておりその経験をもとに講義を行う。				
（授業の内容と到達目標） ヘアケアマイスターとはヘアケア知識が豊富でお客様の毛髪診断が正しくできそれに対する処置・アドバイスが的確にできる者であり、お客様が求めるヘアケアの施術やサービスの品質をよりしっかりと保証し、お客様の安心感を一層高められる人材を育成する。お客様がより信頼してホームケアのアドバイスと商品紹介が受けられることで、美容室の店販の活性化を呼び起こし、引いては美容業界全体としての経済活性化にも寄与することを理解させる。					
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）				
使用教材	日本ヘアケアマイスター協会発行テキスト				
回数	内 容		回数	内 容	
1	毛髪の構造と働き		16	毛髪の健康診断方法 毛髪のデータ	
2	タンパク質とは		17	界面活性剤について	
3	pHと毛髪の4つの結合		18	シャンプー剤の成分と働き、効果	
4	毛髪のダメージの要因		19	トリートメント剤の成分と働き、効果	
5	毛髪のダメージのプロセス		20	スタイリング剤の成分と働き、効果	
6	毛髪科学Q & A		21	ホームケア アドバイス	
7	毛髪のカウンセリングに対して		22	ヘアケア剤Q & A	
8	お客様の悩みを聞く & 求める要望		23	検定対策	
9	現状の毛髪の状態を見極める		24	検定対策	
10	髪質を見極める		25	検定対策	
11	クセ毛について		26	検定対策	
12	髪質と施術時間の関係		27	検定対策	
13	毛髪のダメージレベル		28	検定対策	
14	技術プロセスにおける前・後処理の目的		29	検定対策	
15	毛髪の健康な状態とは		30	検定対策	

授業科目名	接客マナー	専門	対象学年	1年	
		演習	開講時期	通年	
		選択必修	単位/時間	2単位	60時間
担当教員	玉利 太一郎				
	(実務経験内容)				
(授業の内容と到達目標)					
社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理化し、初歩的な仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを学び、社内外の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力を習得する。					
成績評価の方法・基準	学期末試験（80%）、平常点（20%）				
使用教材	全国経理教育協会発行テキスト				
回数	内 容		回数	内 容	
1	社会人としての自覚		16	挨拶と美しいお辞儀	
2	組織と役割		17	尊敬語、丁寧語、謙譲語を使い分ける	
3	社会の変化		18	職場での言葉遣い	
4	仕事と目標		19	分かりやすい話し方と上手な聞き方	
5	主体性と組織運営		20	指示の受け方、報告の仕方	
6	幅広い社会常識		21	ビジネス文書の書き方と留意点	
7	日本語の意思伝達		22	社内文書の種類と目的	
8	その他の基礎用語・基礎知識		23	ビジネス文書の形式と作成のポイント	
9	計数センスを磨く		24	グラフの種類と作成のポイント	
10	ビジネスにおけるコミュニケーションとは		25	出勤から終業時のマナー	
11	意思疎通の重要性		26	公私・機密のけじめ	
12	職場のコミュニケーション		27	心構え・七大基本用語	
13	コミュニケーション向上のポイント		28	基本手順予約客	
14	第一印象の重要性		29	予約のない来客	
15	好感を持たれる立ち居振る舞い		30	受付でのさまざまな応対	

授業科目名	接客マナー	専門	対象学年	1 年
		演習	開講時期	通年
		選択必修	単位/時間	2 単位 60 時間
担当教員	玉利 太一郎			
	(実務経験内容)			
(授業の内容と到達目標) 社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理化し、初歩的な仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを学び、社内外の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力を習得する。				
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)			
使用教材	全国経理教育協会発行テキスト			
回数	内 容			
31	重要性・特性・心構え			
32	電話を受ける			
33	特別な電話の受け方			
34	メモの取り方と伝言メモ			
35	FAX の送信・電話の掛け方・携帯電話の心得			
36	交際業務の重要性			
37	慶事のマナー・結婚のマナー			
38	弔事のマナー			
39	病気見舞い			
40	文書類の受け取りや発送について			
41	郵便の役割			
42	さまざまな配送サービス			
43	オフィス環境や事務機器			
44-46	検定対策			
47-60	茶道			

授業科目名	デザイン	専門	対象学年	1 年	
		演習	開講時期	1 年前期	
		選択必修	単位/時間	1 単位	30 時間
担当教員	比良 なつみ (実務経験あり)				
	(実務経験内容) 本校デザイン科を卒業後、企業でのデザイナーとして勤務した経験をもとに授業を行う。				
(授業の内容と到達目標)					
様々なモチーフを繰り返し描き、デザイン表現の基礎となる観察力、構成力、表現力をトレーニングする。基本的なデッサンの知識、鉛筆の使い方、正確にものを描く為の計り方、色の濃淡などグラデーションの描き方、立体的なものの表現の描き方、遠近の描き分け方などを簡単な球体や円柱や静物や石膏像や人物等を描きながら習得する。就職後活用できるデザインの知識を身に付ける					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材					
回数	内 容		回数	内 容	
1	鉛筆の使い方、グレースケール、紙コップを描く		16	ヘアデザイン画を描く	
2	鉛筆の使い方、グレースケール、紙コップを描く		17	ヘアデザイン画を描く	
3	鉛筆の使い方、グレースケール、紙コップを描く		18	ヘアデザイン画を描く	
4	鉛筆の使い方、グレースケール、紙コップを描く		19	ヘアデザイン画を描く	
5	瓶、木材、ボール、幾何形態等を描く		20	デザイン基礎	
6	瓶、木材、ボール、幾何形態等を描く		21	デザイン基礎	
7	瓶、木材、ボール、幾何形態等を描く		22	ブランディングとは	
8	瓶、木材、ボール、幾何形態等を描く		23	ブランディングとは	
9	習熟度別に石膏像を描く		24	フォトタッチを学ぶ	
10	習熟度別に石膏像を描く		25	フォトタッチを学ぶ	
11	習熟度別に石膏像を描く		26	フォトタッチを学ぶ	
12	習熟度別に石膏像を描く		27	店内ポップ作成方法	
13	習熟度別に石膏像を描く		28	店内ポップ作成方法	
14	習熟度別に石膏像を描く		29	チラシ・DM 制作	
15	習熟度別に石膏像を描く		30	チラシ・DM 制作	

授業科目名	関係法規・制度	共通	対象学年	1・2年	
		講義	開講時期	1年後期/2年後期	
		必修	単位/時間	1単位	30時間
担当教員	玉利 太一郎 (実務経験あり)				
	(実務経験内容) 社会科の教員免許を持ち、公立高校での教諭経験をもとに講義を行う。				
(授業の内容と到達目標) 美容師の業務に係る衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、併せて公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について自覚を促す。美容の業務に係る規定内容を正確に理解させるとともに、衛生法規が美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させる。到達目標は美容師国家試験合格。					
成績評価の方法・基準	学期末試験 (80%)、平常点 (20%)				
使用教材	日本理容美容教育センター発行テキスト、ワークブック				
回数	内 容		回数	内 容	
1	社会生活における法の役割		16	理容・美容	
2	社会生活における法の役割		17	理容師・美容師	
3	憲法、法律、条約、命令、自治法規		18	理容所・美容所	
4	憲法、法律、条約、命令、自治法規		19	美容師に関する規定	
5	衛生法規の概要		20	美容師に関する規定	
6	衛生法規の意義		21	美容師に関する規定	
7	理容師法・美容師法と付属法令		22	美容師に関する規定	
8	衛生行政の意義と歴史		23	美容師に関する規定	
9	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容		24	施設に関する規定	
10	衛生行政の分類		25	施設に関する規定	
11	生活衛生行政		26	立入検査と環境衛生監視員	
12	衛生行政を担う行政機関		27	違反者に対する行政処分	
13	衛生行政を担う行政機関		28	罰則	
14	美容師法の目的		29	美容業の運営に関連する法律	
15	用語の定義		30	美容業の運営に関連する法律	